



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

春号
2022

発行所 真宗大谷派 旭川別院
輪 番 太田 法生
〒070-0030 旭川市宮下2丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411

■印刷：植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ

真宗大谷派旭川別院 | 検索

仏法は身で聞け



蘭越町 法誓寺住職

黒 萩 昌

「どうか本当の自分を知ってほしい」ただそのことが如来の本願の私たちに對する願いです。そして、本当の自分に出会った時、私たちは絶対他力(ぜったいたりき)の世界、お陰様の世界に出させていただくのです。そのことを真宗では「信心をいただく」と言います。

先日、車で移動中に聞いたラジオ番組で短い小説の朗読が流れていました。それは盛岡市のNPOが東日本大震災にまつわる小説を募集した「いわて震災小説二〇二〇」の応募作品で、「あの日から」という題名でした。内容は、こはるちゃんという小学校一年生の女の子とそのお母さんが、東日本震災の津波でお父さんと家を流されて転校して来たなみちゃんという同級生の女の子と出会っていく内容でした。

他の人の悲しみを 我がことのように

小説は、こはるちゃんが一年生最後の三学期に、一年生だけががぶる黄色い帽子と赤いランドセルで登校するところからはじまりました。こはるちゃんを送り出したお母さんが、車で職場に向かう途中の交差点で、学校に向かう

小学生の集団に追いつきます。その中に、これ以上うつむけないくらい真下に視線を落として歩く女の子がいました。その子はこはるちゃんと同じ黄色い帽子をかぶってピンクのふちのメガネをかけ、まわりの子よりもひときわ小さく見えました。こはるちゃんのお母さんは「大丈夫かな」と心配しながら職場に向かいます。その日、こはるちゃんからその子の名前がなみちゃんであること、そしてお父さんと家を震災で津波に流されて転校してきたこと、ピンクのふちのメガネは亡くなったお父さんから買ってもらったということ、お母さんから聞いています。その日からこはるちゃんのお母さんは、「どんなにうつむいても、明日も姿を見せてね」となみちゃんを探しながら通勤するようになります。

やがて四月の新学期を迎え、いつもの交差点で黄色い帽子をかぶった小さな男の子と手をつないでいるなみちゃん、姿を見ます。その時なみちゃん、学校の方を指差して「あれが学校だよ」と言っているようでした。その様子を見たこはるちゃんのお母さんは「ちゃんとお姉ちゃんやってるんじゃない」と涙が込み上げて来て目の前の青信号がにじんで見えてきました。こんな内容でした。短い時間の朗読でしたが心打たれる内容でした。

確かに私たち人間には、他の人の悲しみを我がことのように感じ、そしてその人の幸せを願わずにはおられないという心が起こって来ることがあります。不思議なことだと思えます。しかし残念ながら、その心のもう一つ奥底に「自身は現にこれ罪悪生死の凡夫、曠劫(こうこう)より已来(このかた)、常に没(もつ)し常に流転(るてん)して、出離(しゅつり)の縁あることなし」と言わざるを得ない人間存在の深い罪業性が横たわっています。そしてそこにこそ如来の本願から願われている「本当の自分を知ってほしい」という我々の本当の姿、本性があります。

無始以来の悪人

「曠劫より已来」とありますが、私たちの命の背景には「曠劫より已来」の流転の歴史があります。「曠劫より已来」無数の命が生まれては死に生まれては死に、限りなく生と死を繰り返して命をつなぎ生き延びて来ましたが、そしてそれは同時に、深い罪業の積み重ねと流転の歴史でした。「いのち」は無始以来(むしいらい)姿かたちを変えながら今(いま)の私にまでなつて来ましたが、その命は命を護るために他の命を限りなく利用し踏み台にして、時には抹殺して「いのち」をつないできたのです。筆舌に尽くせぬ深い罪業の積み重ねです。そのなごりが私たちの今の日常生活の折々に顔を出してきます。

親鸞聖人は「凡夫というは、無明煩惱(むみょうぼんのう)われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、

そねみ、ねたむところをおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」とおっしゃいます。ここに私たちが無始以来、深い罪業を積み重ね流転を繰り返して来たという動かしがたい証拠があります。このようない方方は、私たちのまじめさや努力では決して克服することはできません。この「欲といかり、はらだち、そねみ、ねたみ」は、いつも私たちの「他の人の悲しみを我がことのように感じ、その人の幸せを願わずにはおられない」という心に勝ります。結局、私たちは「欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむところ」のままに空しく命終わっていく存在です。この流転の身に終止符を打つ道は、ただ自覚によるのです。その自覚を成り立たせてくれる唯一の手立てが、「念仏申す生活」と「念仏のいわれを尋ねる仏法聴聞の生活」、「真宗門徒の生活」です。私たちはこの「真宗門徒の生活」を通して少しずつ本当の自分を知られ、そして「許されて、支えられて、生かされて在る」この身の事実、お陰様の世界に眼(まなこ)を開かせていただくのです。

思い当たる・

身に覚えがある

ここで言う自覚は、人間の真面目さや努力・能力で、頭で理解していくようなものではありません。今、世界でも国内でも、毎日毎日胸が痛み、目を覆い耳をふさぎたくなるような出来事が次から次に報道されています。何故、私たちはその報道に胸が痛んだり、目を覆い耳をふさぎたくなるのでしょうか。それは無始以来の深い罪業の積み重ねと流転のこの身にとって、どこかで「思い当たり、身に覚えがあること」だからなのです。

本当の自分を知るということは、決して頭で理解して成り立つものではなく、「思い当たる、身に覚えがある」というかたちで知られてくるものです。そのことを私たち真宗門徒は「仏法は身で聞け」と教えられて来ましたが、

法座・行事案内予定

4月	
1日	午後7時 公開学習会 皇山 明光師
7日	午後1時 群萌の会 列座
8日	午後1時 マヤの会 列座
13日	午後1時 初心の集い 輪番 列座
16日	午後1時 同朋の会 列座
16日	午後7時 壮年の集い 列座
18日	午後1時 婦人会(総会) 列座
28日	午後1時 定例法座 松澤 正樹師
未定日	あゆみ会 列座

5月	
1日	午後7時 公開学習会 皇山 明光師
7日	午後1時 群萌の会 列座
8日	午後1時 マヤの会 列座
13日	午後1時 初心の集い 輪番 列座
16日	午後1時 同朋の会 列座
18日	午後1時 婦人会 列座
21日	午後7時 壮年の集い 列座
27日	午後2時 現如上人百回忌法要速夜、(27・29日) しんらん誕生会
28日	午後1時10分 新門徒初参式、誕生会開会式
29日	午後4時 公開講演会 真城 義麿師
未定日	午前7時20分 暁天講座 真城 義麿師
未定日	あゆみ会 列座

6月	
1日	午後7時 在家報恩講参り
1日	午後7時 公開学習会 皇山 明光師
7日	午後1時 群萌の会 列座
8日	午後1時 マヤの会 列座
16日	午後1時 同朋の会 列座
18日	午後1時 婦人会 列座
18日	午後7時 壮年の集い 列座
28日	午後1時 定例法座 松澤 正樹師
未定日	あゆみ会 列座

7月	
1日	午後10時 永代経会 輪番・列座
1日	午後7時 公開学習会 皇山 明光師
8日	午後6時 公開講演会 本多 雅人師
9日	午前7時20分 暁天講座 本多 雅人師
13日	午後1時 初心の集い 輪番 列座
16日	午後1時 同朋の会 列座
16日	午後7時 壮年の集い 列座
18日	午後1時 婦人会 列座
未定日	あゆみ会 列座

※コロナ感染状況により、行事の変更もあります。ご了承下さい。

初心の集い

身近な仏事と輪番連続講話 年八回

令和四年四月より輪番のお話を中心に開講します。初めてお寺にかかわりを持
たれる方、是非お待ちしております。

日時 毎月十三日 午後一時から三時
(六月、八月、十一月、一月はお休み)
場所 旭川別院本堂
(冬期は一階広間になる場合あり)
内容 お経の練習、お内仏のお給仕、お釈迦様、親鸞聖人の教え等、輪番のお話
持ち物 念珠・勤行本(貸し出し可)

会員制ではありません。皆さんお待ちしております。(すべて無料です)

※コロナウイルス感染防止の為、やむを得ず中止する場合は別院ロビー掲示しま
す。詳細はお寺TEL二二二四〇九迄ご連絡ください。



輪番感話⑦



京都の大谷専修学院を卒院する
時、故児玉暁洋先生から「葬式・法
事を真面目にやれ!」と云われた
事を、時々思い返すことがある。特
に忙しく時間の無いときや、心身
共に疲れているとき、法要が重
なっている時など、早く終わらせ
たいという気分になることがあ
り、その言葉を憶うとき、より丁寧
に勤めなければと奮起することが
ある。

しかし特にこのコロナ下に於い
ては、お斎が無くなり、長居するこ
ともままならず、法話も短くなり
がちで、ややもすれば満足なお話
もできないまま終わってしまい、
仏事を軽んじているのではないか
と自問することがある。

テレビのコマーシャルでは盛ん
に葬儀社の宣伝が「小さな葬式」
と家族や身内だけの葬式を推奨
し、煩わしくなく、合理的であるか

のように伝えている。寺院の側か
らすれば危機的な状況であるが、
この事について、楠信生先生は「世
間からすると常日頃の信頼関係を
築けていない僧侶の葬儀の折の無
配慮さに、諸宗の祖の願いを失っ
ている」(真宗二〇二〇年七月号)
と、その一端を指摘している。

はたしてご門徒さんとの信頼関
係は、どのようにして築いていけ
ばよいのであろうか。葬儀での悲
しみに寄り添いながら、ご遺族の
立場で共に聞法させていただく場
でありたいと願うことは大事であ
る。

ご門徒さんの側から見れば、この
お坊さんは本堂に「南無阿弥陀仏」
のいわれを語ろうとしているので
あろうか。何よりも仏法を依り処
として生きているのか、そして僧
侶自身が日頃仏法を聴聞している
のか。そういう僧侶の姿勢こそが、

信頼関係となっていくのではない
だろうか。その事を見失うとすれ
ば、単なる葬儀中心のお坊さんに
なってしまう。

しかし、確かに先生は「葬式・法
事を真面目にやれ」と今も呼んで
下さっている。

(太田 法生)



公開学習会のご案内

昨年に引き続き四月から真宗寺・畠山明光先生にご出向いただき、一人
も多くの方々と共に学びを深め、聴聞していただくという願いで公開学習会
を開講します。参加条件などは一切ありませんので、是非この機会にご参加
下さい。

期 日 令和四年度(年九回一月、八月、十一月はお休みです)
場 所 旭川別院二階広間
講 師 畠山明光師(真宗大谷派真宗寺前住職)
学習内容 歎異抄『真宗聖典』(東本願寺出版部)をお持ち
の方はご持参ください。

会 費 五〇〇円

※途中からの参加も可です。

※コロナウイルス感染防止等のため、やむを得ず中止する場合がございます。
詳細は別院までご連絡ください。



永代経法要のご案内

「永代経」とは、永代にわたり読経を通して、仏さまの言葉(教え)にふれ、私
と私に続く縁のある人達が出遇い、生きる意味を問い続けていく御仏事
です。私に先立って人生を歩み人生を終えていかれた大切な方々の「死」を縁
にして、仏さまの教えに身を据えて私自身を学ばせていただくことです。
永代経法要は、「私に人として生きるとはどういうことをかを教えて下さる
仏さま」と遇わせていただく尊いご縁です。

日 時 七月一日〜七月十日迄 午後一時〜

旭川別院大谷婦人会総会の御案内

日 時 四月十八日(月) 午後一時〜三時
内 容 総会・法話(輪番)
会 場 大谷ホール一階

*お茶・お菓子を用意しています。

*コロナの影響で変更等がある場合は別院ロビーに掲示します。

*旭川別院檀家の女性は婦人会員ですので、ぜひ御参加お待ちしております。

旭川別院職員紹介

～よろしくお願ひ申し上げます～



太田 法生
(輪番)



大野 信
(主任)



北田 康生



経森 由章



井畑 毅俊



小宮山 一貴



安居 宏淳



矢田 浩之



柳澤 智証



福芳 応彰



川村 唯心



水上 量順



草部 俊裕
(会計・列座)



横井 光
(書記)



佐竹恵美子
(賄掛)



肥田 敏一
(賄掛)



下村 健二
(寺務員)



長野 幸子
(寺務員)



印田 良子
(寺務員)



公開講演・暁天講座のご案内

●公開講演

・日時 七月八日(金) 十八時～二十時
・会場 大谷ホール



講師

東京教区 蓮光寺

本多 雅人 師

●暁天講座

七月九日(土) 七時～八時二十分迄 会場 本堂
※パンと牛乳を用意しています。

●公開講演

・日時 九月三日(土) 十三時半～十五時半
・会場 大谷ホール



講師

北海道教区駐在教導

中西 志香 師

皆様のご聴聞、お待ちしております。



暁天講座



公開講演会

真宗大谷派 旭川別院

華儀への提案

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀式が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とのお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいた葬儀式です。どうぞご利用下さい。



真宗本来の葬儀壇

大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



広間

小広間

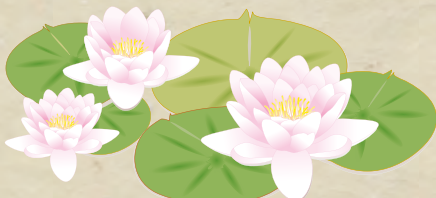
2階広間

使用料 (祭壇・会場費込)

●各広間…………… 100,000円 (税込)

●大谷ホール……… 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃

しんらん誕生会

2022年5月27日~29日

5月28日
限定
企画



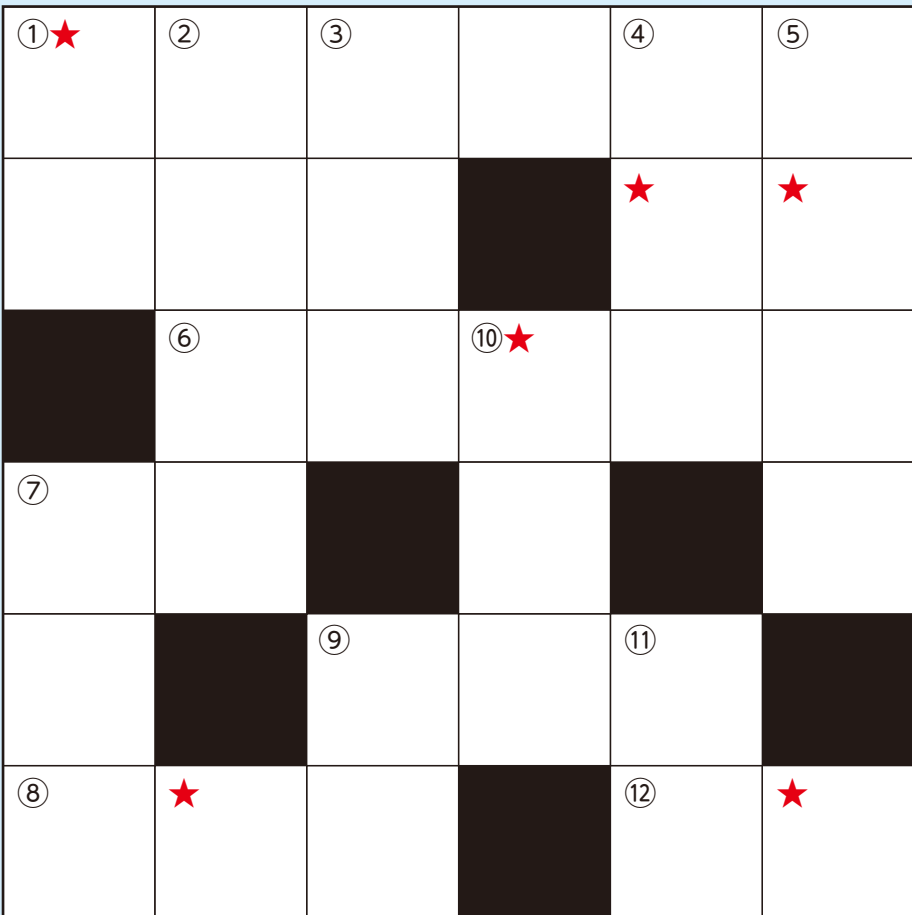
パズルを解いて **寺X** なお宝をGETしよう!!

限定
1名

限定
20名

クロスワードパズル

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう！



※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

5月28日当日

★の文字を組み合わせて、お宝の場所を導き出そう！

--	--	--	--	--	--

を探せ!!!!

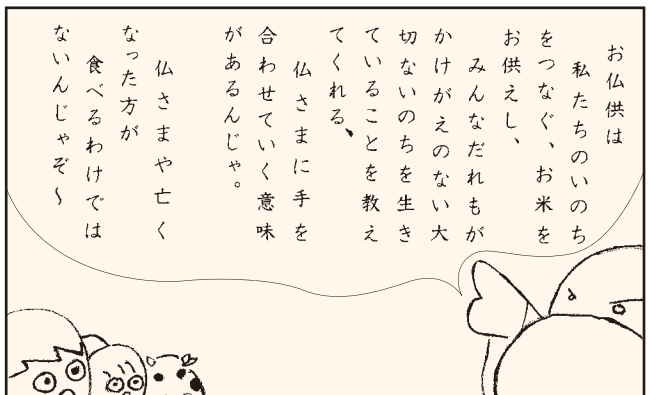
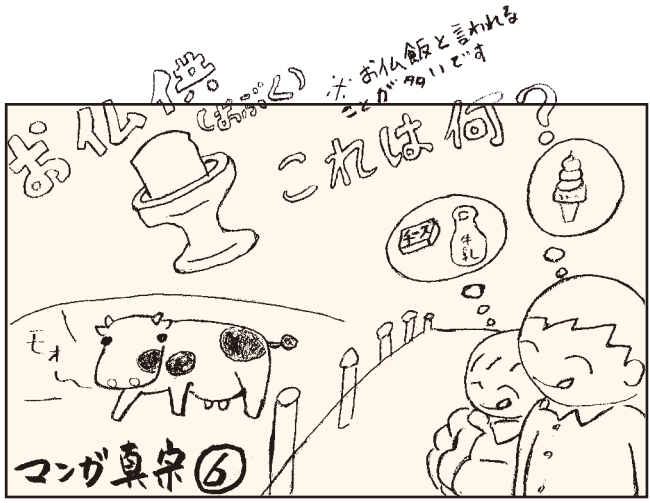
タテのカギ

- | | |
|---|---|
| ① | ネンキ ガツキ ジョボウオン ツト オコタ ダンドクモン
「年忌月忌〇〇所報恩の勤め懈ることなく」歎徳文※1(門徒マニュアル) |
| ② | お内仏で報恩講やご法事の時に掛ける三角の布を「〇〇〇〇」と言う。 |
| ③ | お布施は施しをする行であり、「〇〇〇う料」ではありません。
(門徒マニュアル) |
| ④ | イッサイグンジョウム ガツキ
「一切郡生蒙〇〇〇よう」(月忌等で聴いたことありませんか?) |
| ⑤ | 今月号の別院だよりの「〇〇〇〇」の筆者は、水上量順列座です。 |
| ⑦ | ケンジョウドシンジキョウギョウシヨウモンレイ キョウギョウシンシヨウ
「顕浄土真実教行証文類(教行信証)」は「〇〇〇ん聖人」の主著です。
その中の行巻に月忌等で親しみのある偈があります。(⑥の答え) |
| ⑨ | 私たちの宗派名は「真宗〇〇谷派」です。 |
| ⑩ | 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ
「南無阿弥陀仏 人と〇〇〇たことの意味をたずねていこう」 |
| ⑪ | 真宗本来の葬儀式では、お荘厳(おかざり)に6本の灯明が並びます。
それは「地獄・〇〇・畜生・修羅・人・天」の六道を表します。 |

※1 旭川別院の出版物です。事務所に配布しております。

ヨコのカギ

- | | |
|---|---|
| ① | 「〇〇〇〇〇〇」は、真宗門徒にとって一年でもっとも大切で中心となる
仏事です。 |
| ⑥ | 「〇〇〇〇〇〇偈(〇〇〇〇〇〇念仏偈)」は、7言60行120句からなる偈です。 |
| ⑦ | 「華瓶」は浄水を備える器です。お花はささず、「〇〇み」などの
青葉をさします。 |
| ⑧ | 「〇〇〇んくん」は、開催当日旭川別院に遊びに来てくれます。 |
| ⑨ | 「〇〇〇 〇〇〇の心が お念仏によって 砕かれる」
※3文字。同じ言葉が入ります。(別院内の掲示物) |
| ⑫ | 「えらばず 〇〇わず みすてず」(別院カレンダー) |



コロナ禍の影響で以前の生活とは異なる行動が始まった。できる限り他人と接しないよう、境内の草取り、森への散策など。日ごろ目の前のあるにもかかわらず無関心だった自然



利尻郡利尻富士町
第十四組 本浄寺

府録 雄司

連続無窮



道内御法話巡り

一般的に登山は登山道から昇降する。稀に藪こぎで挑む者もいるかもしれないが、道なき道を歩むことは難の中の難である。先人方が長い歲月をかけ道を切り開いてくれたから登山ができると言っても過言ではな

に目を向けることに何故かあった。毎日、眺めている利尻山は百名山の一座に属するということもあり、毎年沢山の登山客を目にしてきたが全くと恩師に連れられ嫌々八合目まで登ったことしかなかった。しかし、限定された生活様式のコロナ禍となり山頂を目指すことにした。

登山は初心者にとって過酷の極みであるが、それ以上に日常では得られない自然の恵みを与えてくれる。量りしれない木々、いつから存在するのかわからない岩々、どこから飛来したか知らない鳥々、厳しい条件のなか咲く花々など。みな共存している現実を改めて知らされ、自分はいかに小さな視野で日常を生活しているのか教えられる。



宗祖は広大な自然からも、生命感覚を養われ、厳しい現実をお念仏申して生きられたと思う。

い。安全道を選択し、後人が迷わないような努力が登山道の随所にうかがわれる。倒木や風雨で流された登山道の整備も継続されている。

私達が不思議にもいただいたお念仏の道も数限りない方々によって道を整えてもらい、今尚、念仏者が道に迷わないように念仏申して生き続けなさいと勧めてくださっていると感じる。

別院子ども会

お寺に年賀状を送ろう!

一月、子ども会の企画としてお寺に年賀状を送っていただきました。自分や虎、キャラクターなどの絵・写真とともに、「べんきょうをがんばりたい」や「今年の目標は、バスケのうでを上げて、試合に出ること」と一言添えられていました。



この他にもたくさんの心温まる年賀状が届きました

別院子ども会

昨年度は「キッチンカー来院」や「謎解き」、「石けん作り」など、新たな内容を考え開催しました。今年度も状況を見ながらご案内をさせていただきますので、ぜひご参加ください。例年のようにお泊まり会なども開催できればと思います。お寺に子ども達が集い、楽しい時間をともにできることをスタッフ一同願っております。

※子ども会のご案内をご希望の方は、事務所またはお電話にてお問い合わせください。



在家報恩講のご案内

〇期間

六月一日〜三十日迄
(日時につきましては、事前に郵便にてご連絡させて頂きます)

〇お荘厳(おかざりするもの)

・お華束(白いお餅)・打敷(三角形の金襴の布)・朱ローソク(赤ローソク)

※この在家報恩講中の月命日のお参りはお休みとさせて頂きます。

・六月にご法事等を予定のご門徒様は、五月十五日までに別院にお連絡の上、ご調整願います。

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

新しい年を迎え、3学期が始まりました。幼稚園の子ども達は、冬ならではの遊びを思い切り楽しみました！冬の風や雪の冷たさ、水が氷になる不思議さ、夏とは違う色水遊びの楽しさ、高い雪山の頂上に登った喜びなど、様々な事を感じる事が出来ました。
感染症拡大が収まりませんが、出来ることを実行し、5歳児きりん組の子ども達の卒園と、0〜4歳児の子ども達が一つお兄さんお姉さんに進級することを、心からお祝いしたいと思います。

冬の遊びいろいろ

*0歳児 ひよこ組

じつと雪を見つめます。



お散歩：雪道でも、しっかりと足取りで沢山歩きます。

*1歳児 りす組

木の枝にできたキラキラのこらに見入っています。



大谷の杜でおしりすべり

*2歳児 うさぎ組

寒い日。しゃぼん玉、濡れたおしぼりはどうなるかな？



*3歳児 こあら組

ボウルを使ってまんまる雪だるま作り



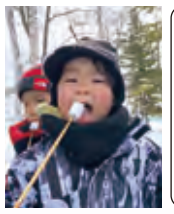
北彩都ガーデンでチューブ滑り



お寺を散歩中にオラフ発見!!

*4歳児 ぱんだ組

たき火で焼いたマシユマロ♡



色水で氷作り



食育活動

◆おにぎり



栄養士の先生に目の前で、おにぎりをにぎってもらい、いただきました。

◆おひなまつり給食



メニューは、ちらし寿司、筑前煮、お吸い物、ひな祭りゼリーです。2歳児うさぎ組の子ども達は、広場で本物のひな人形の前でいただきました。

◆メロンパン作り



ロールパンにクッキー生地をかぶせ、模様をつけ、オープンへ。焼きたてをいただきました。

5歳児 年長 きりん組の活動

☆陶芸教室



『旭川窯』の先生に教えていただき、素敵な作品が出来ました！

☆小学校へお手紙



雪の旭山動物園に行きました。今まで沢山おでかけに連れて行っていただいた、バスの運転手さんに感謝します。

小学校ってどんな所なの？という疑問から、色々な質問を紙に書いて送ることにしました。6年生が一生懸命に丁寧に返事を書いてくれました。小学校は優しいお兄さんお姉さんがいるし、何だか楽しそう！と思えたきりん組の子ども達です。

ご門徒の声

正信偈を得るなり

門徒 脇坂 慎一



別院では毎月学習会を公開しております。畠山明光先生が列座の方々に正信偈の心を感じ取りながら正信偈を唱えているのかとか、呪文にしているのではないかと良く言われます。

私はフシを合わせ音程が狂わないように注意しながら読経していますが、先生の言葉を思い浮かべて終わってみると、呪文ではないですが、ただ唱えていたなということがしばしばあります。親鸞聖人の浄土感を理解したいと思い、東本願寺出版「正信偈に学ぶ」著者狐野秀存さんの本を読ませていただきました。

他にも何冊か挑戦しましたが、まず活字の意味・内容が深く広いのでなかなか理解できません。昔の人は漢文で読んでいたのでしょうか。このような文章が理解出来たのだから凄いものだと思えて感心します。私は以前から不断煩悩得涅槃と自然に口から出てくるのですが、直訳すると「煩悩を断ぜずして涅槃を得るなり」でした。先生がよく「煩悩具足の凡夫」と引用されてましたが、当初は何の事なのか理解でき無かったですが、私なりに人は煩悩がまみれている、だから阿彌陀如来に任すしかなく、阿彌陀如来が教えてくれることを信じようと思います。しかし、どうやってくれるかと疑いの心を抱いてしまいます。これが「煩悩具足の凡夫」といわれた私の理解です。

親鸞聖人は七祖の教えを受け継ぎ真宗教義を説き述べられました。法話を聴聞している中に間接的に触れられているのかもしれないですが、私には聞こえて来ません。正信偈の具体的な法話を聞かせて頂きたいと思っています。

うどんダ

四月といえば、入学式などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。私が学生時代を過ごした京都では、入学式の頃には桜が満開でした。旭川での桜開花が待ち遠しく思われます。

その学生時代、指導教員の先生に進学の報告をした時、先生から次のように言われました。
「これからの学びにおいて様々な知識が増えていくと思うけど、陥ってはいないことがあるからね。」
先生はこれについて詳しくは言われませんが、私が「知識を身に付けたことにより相手を見下していくの」であれば、それは学びではない、ということをおっしゃったのでした。

それは同時に自身の事実が知らされたということでした。他者と比較し、知識がある自分の方が勝れていると思いがちですが、相手を見下す傲慢なわが身です。そこにあるのは「私だけ」という孤独さではないのでしょうか。

四月八日は「花まつり」と言われ、お釈迦様がお生まれになった日です。誕生されてすぐに七歩歩き、「天上天下唯我独尊」と言われたと伝えられています。「ただ我独りとして尊し」。この誕生直後の教言は私に、ご縁によって今ここにあり、誰とも代わることのない存在という、この一人のままに尊い「私」であるという気づきをおぼえておられます。

知識や比較を超えた「いのち」の世界がこの傲慢なわが身に開かれる、これが「ただ念仏して」（『真宗聖典』六二七頁）ということではないでしょうか。ここにこそ、繋がって存在している「われら」として他者が見出されてくるのであると感じるのです。

(水上)